



医師



フットケア外来について

形成外科 森下 剛

フットケアとは足の手入れ全般をいいます。糖尿病があると足潰瘍や足壊疽になりやすく、そのような足病変を持つ糖尿病患者さんは、糖尿病患者さんの全体の約2%を占めると言われています。糖尿病患者さんでは足潰瘍を生じて足壊疽となり、それから足切断を余儀なくされる方もおられます。足病変が拡大する前の軽症時のケアが極めて重要です。当院の形成外科では平成18年5月からフットケア外来を開設し、形成外科医師、皮膚・排泄ケア認定看護師、形成外科看護師、義肢装具士が協力して、糖尿病患者さんの足病変の診断と治療およびフットケア、日常生活指導を実施しております。外来では実際に患者さんの足に触れ、潰瘍部の処置、タコやウオノメの処置を行っております。なお水虫等は皮膚科にて治療を行っております。診察時には看護師、医師より問診を行うこととしており、特に初診時には足の感覚の検査、足の関節の可動域

の検査も行っております。必要に応じて足関節血圧と上腕血圧比の測定、足趾の血圧と上腕血圧比の測定や、血管エコーを行っております。足の血流に問題がある時には処置だけでは傷の改善は認められないため循環器科等へ依頼しております。特に足変形が強い場合にはフットプリント等を用いて、足底板の作製、足底板だけで改善がみられないときには、靴を作製しております。靴作成の際には外で履く靴だけでなく、家の中でも履く室内靴も作るように勧めております。また、患者さんご家族に外来での処置に参加してもらうことで、正しい足のケアを家でも継続していただける動機づけになっていると考えております。糖尿病の患者さまでは早期より適切な処置、フットケアを行うことが必要です。糖尿病をおもちの方でタコ、靴、傷などの事でお困りの時はお気軽に形成外科にご相談ください。ご相談の上、火曜日のフットケア外来にて定期的に診察させていただいております。

★中部ろうさい病院のホームページで、〈病院の情報〉〈フィリア・レター〉〈ろうさい病院つうしん〉がご覧いただけます。携帯電話からもアクセスできます。どうぞ、ご利用ください。